■参考　小児抗菌薬適正使用支援加算の説明文(例示)

○○○○様	説明日　　年　　月　　日（　　）
検査・問診確認事項	□バイダルサイン　　□体温（　　度）　□意識レベル
	□血圧（　　／　　mmHg　）　□抗菌薬アレルギー歴　□なし　□あり（薬剤名
	□溶連菌検査　　□CRP　□末梢血液一般　□血液像　　□レントゲン（　　） □その他（　　）
診断（暫定を含む）	□感冒　　□軽症　□中等症　□重症
	□急性副鼻腔炎　□軽症　□中等症　□重症
	□急性咽頭炎　□軽症　□中等症　□重症
	□急性気管支炎　□軽症　□中等症　□重症
	□急性下痢症　□水様下痢　□血性下痢　□軽症　□中等症状～重症
	□その他（病名　　）
抗菌薬不使用時の患者（家族）との面談・説明内容	□患者（家族）の心配事や期待　□抗菌薬についての考え　□今後の経過の見通し □十分な栄養、水分、休養が大切であること　□情報の理解の確認 □その他（　　）
説明内容	
□急性気管支炎	今のところ肺炎を疑うような症状もありません。気管支炎には抗生物質（抗菌薬）はあまり効果がありません。抗生物質により吐き気や下痢、アレルギーなどの副作用が起こることもあります。抗生物質の使用の利点が少なく、抗生物質の使用の利点よりも副作用のリスクが上回ることから、今の状態だと使わない方が良いと思います。咳を和らげるような薬を処方します。1 週間後くらいに様子を見せて下さい。もし眠れないほど咳が強くなったり、痰が増えて息苦しさを感じたり、熱が出てくるようなら肺炎を考えてレントゲンを撮影したり、診断を見直す必要が出てくるので、その場合は1 週間たっていなくても受診してください。
□急性下痢症	特別な治療薬はありませんが、自分の免疫の力で自然に良くなります。子どもの場合は、脱水の予防がとても大事です。体液に近い成分の水分を口からこまめに摂ることが重要です。最初はティースプーン一杯程度を10～15 分ごとに与えてください。急にたくさん与えてしまうと吐いてしまって、さらに脱水が悪化しますので、根気よく、少量ずつ与えてください。1 時間くらい続けて、大丈夫そうなら、少しずつ1 回量を増やしましょう。
□その他（　　）	

お大事に　医療法人○○会○○クリニック　院長　○○○○　電話　00000000000

※本例はあくまで事務的な例示です。医学的根拠を踏まえてご活用ください。